

# Takeda Web Seminar

日時

2018年7月12日（木） 12:30～13:30

会場

全国サテライト会場

講演 1

## 服薬アドヒアランスを意識した 糖尿病治療戦略

医療法人TDE 糖尿病・内分泌内科クリニックTOSAKI 院長  
戸崎 貴博 先生

講演 2

## 帯状疱疹予防のための水痘ワクチン接種

公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院  
小児科・感染症科 部長  
羽田 敦子 先生

※武田薬品 医療関係者向け情報「Takeda Medical site」(会員登録が必要)からもご視聴いただけます。  
視聴予約が必要ですので、「Takeda Medical site」よりお申し込みください。<https://www.takedamed.com/seminar/>  
視聴予約は講演開始 30 分前までをお願いいたします。

※本講演会は、「Care Net」でもご視聴いただけます（事前に会員登録と視聴予約が必要となります）

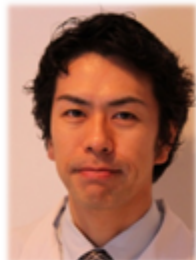
主催



武田薬品工業株式会社

講演 1

服薬アドヒアランスを意識した糖尿病治療戦略



医療法人TDE 糖尿病・内分泌内科クリニックTOSAKI 院長

戸崎 貴博 先生

糖尿病データマネジメント研究会の報告によると、2型糖尿病患者の平均HbA1cは年々低下しており、2009年にDPP-4阻害薬が上市して以降はその傾向は顕著である。しかしながら、依然として約半数の患者は合併症予防のための目標値である7%未満を達成できていない。この原因のひとつとして、薬物療法に対する服薬アドヒアランスの不良が考えられる。

昨年12月に投薬期間制限が解除された、アログリプチンとメトホルミンの配合剤であるイニシク配合錠は、血糖低下作用に加えて、服薬アドヒアランスを上昇させることが期待されている。本講演では、糖尿病薬物療法の課題、イニシク配合錠の製品プロフィールと私自身の使用経験、当院のスタッフが実施した治療満足度調査結果、そこから見えてきた患者と医療従事者の視点の違いを紹介する。また、当院で実際に行っている診療の工夫についても言及する。

講演 2

带状疱疹予防のための水痘ワクチン接種



公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院  
小児科・感染症科 部長

羽田 敦子 先生

乾燥弱毒生水痘ワクチンは日本国内で2016年に带状疱疹予防の効能が追加された。

带状疱疹は水痘带状疱疹ウイルスの再活性化により発症し、発症者の約2割が带状疱疹後神経痛へ移行する。

米国で2006年より使われているワクチンは、日本で開発された岡株を由来とし、米国でのプラセボ対照比較試験において带状疱疹の発症を51.3%、带状疱疹後神経痛を66.5%減少した。

わが国においても50歳以上の带状疱疹予防に水痘ワクチン接種が勧められる。